dentsu

NEWS RELEASE

株式会社 電通
コーポレート・コミュニケーション局 広報部
105-7001 東京都港区東新橋1-8-1
Tel 03-6216-8041
http://www.dentsu.co.jp/

平成 22 年 11 月 2 日

電通総研が独身者の意識・実態調査を実施
～第一弾、「イマドキ独身女子の結婚観と恋愛の実態」とは？～

電通総研は、「『婚活』時代」の著者でジャーナリストの白河桃子氏の監修のもと、全国 23 歳～49 歳の独身男女を対象に「電通『独身』意識調査」（1996 名対象／2010 年 2 月実施）と「電通『独身』実態調査」（1145 名対象／2010 年 9 月実施）を実施しました。未婚率が上昇の一途をたどり（※1）、晩婚化・非婚化によって将来的に独身者が増加していくと予測される（※2）なか、電通総研では、いまや「未婚」は一過性のライフステージではなく、ひとつのライフスタイルであると捉え分析を進めています。

このたび調査レポート第一弾として、 “独身女子” の「結婚・恋愛」にフォーカスをあてた調査結果をご紹介いたします。（【資料編】に白河氏の分析コメントが入っています。併せてご参照ください。）

※1 2005 年総務省統計局国勢統計課「国勢調査」による　※2 2008 年 3 月公表・国立社会保障・人口問題研究所実施「日本の世帯数の将来推計」による

調査結果トピックス

専業主婦は高嶺の花？ イマドキ独身女子の「未恋」な現状

① イマドキ独身女子の結婚観

● 結婚の条件は「安・信・楽・近（アン・シン・ラク・チカ）」。

独身女子が結婚相手に求める条件として上位にあがったのは**「信頼できる」「価値観が近い」「安心できる」「一緒にいてラク」**で、いずれも６割を超えた。かつて“三高”といわれた結婚３大条件「年収が高い」（28 位）、「身長が高い」（33 位）、「学歴が高い」（45 位）はいずれも重要視されず、**むしろ大事なのは「仕事や収入が安定している」**（8 位）ことであるという結果であった。

● 結婚をきっかけに「専業主婦になるのが理想」は３割。
実際に「専業主婦になれる」と思っているのは６％。

独身女子の 76.6%は、結婚または出産を機に仕事を辞めて**一度は専業主婦になりたいと思っている**。そのうち**「結婚したら仕事を辞めて専業主婦になる」のを理想**としているのは **28.9%。**しかし**実際に専業主婦になれると思っているのは 6.3%**であった。いまや**専業主婦は高嶺の花**であり、理想と現実イメージの大きなギャップがうかがえる。

② イマドキ独身女子の恋愛実態

● 独身女子１０人のうち７人が「彼氏はいない」。半数は「３年以上いない」状況。

現在**「付き合っている彼氏がいる」独身女子は 30.7%**。つまり、**７割は恋人不在の状況**であることが分かった。また、彼氏がいない人の半分を占める **34.7%が「３年以上いない」**状況で、**「これまで異性とお付き合いしたことがない」という 15.2%**を加えると、独身女子の半数以上が３年以上異性と付き合っていないという実態が明らかとなった。

● 彼氏がいる女子の４割は「ほぼ毎日」彼氏とメールをする。

彼氏と**「ほぼ毎日メールをする」人は 39.6%**、彼氏と**「ほぼ毎日ケータイで話す」のは 20.9%**という結果。恋人がいる女子の約半数は彼氏と週４日以上メールをし、週２日以上はケータイで話している。相手と時間を合わせる必要がある**携帯通話に比べて**、時間を選ばない**メールは２倍の頻度**で行われていることが分かった。

③イマドキ独身女子の意識

● 自称「肉食系女子」は４割。自称「肉食系男子」とほぼ同じ出現率。

男子の草食化に伴い女子の肉食化が話題になっているが、実際はどうなのか？ **「人から肉食系だと言われる」 肉食風の女子は 34.2%**。しかし、**「自分は、ほんとうは肉食系である」と答えた肉食自覚のある女子は 39.6%**と見た目より自覚が上回った。ちなみに**“肉食風”男子は 27.6%、“肉食自覚のある男子”は 40.7%**と、自覚ベースでは男女ともに約４割との出現率で、差はほとんどみられなかった。

④イマドキ独身女子の仕事・お金・暮らし

● 飲み会にかける費用は、一回につき平均 2,864 円。客単価“三千円の壁”実在。

月収（バイト・小遣い含む）から家賃や高熱費などを引いた、独身女子の**一ヶ月に自由に使える金額は、平均 50,878 円。**そのなかから**一回の飲み会で使う金額は、会社関係の会合や合コンなどで平均 2,864 円、女子会などの同性の友人との会合では 2,744 円という結果であった**。飲食店における独身女子客の単価“三千円”超えのハードルは高いようだ。

＜このリリースに関するお問い合わせ＞
（株）電通　電通総研 インサイトセンター　ヒューマン・インサイト部
四元、大屋、西井　Tel： ０３－６２１６－８４５８

① イマドキ独身女子の結婚観

●結婚の譲れない条件：「安・信・楽・近（アン・シン・ラク・チカ）」。

Q 結婚を考えた際、相手に対する「譲れない条件」（52 項目中）

結婚に譲れない条件		独身女子（%） n=757
第１位	信頼できる	68.0
第２位	価値観が近い	64.1
第３位	安心できる	61.4
第４位	一緒にいてラク	60.1
第５位	性格がいい	56.4
第６位	尊敬できる	53.8
第７位	一緒にいて楽しい	52.0
第８位	仕事や収入が安定している	51.0
第９位	自分を認めてくれる	49.0
第１０位	健康である	44.4

かつての“３高”は、		
第２８位	年収が高い	15.1
第３３位	身長が高い	11.1
第４５位	学歴が高い	4.8
第５０位	大企業に勤めている	2.2

イマドキ独身女子の結婚相手に対する譲れない条件として上位にあがったのは、**「信頼できる」「価値観が近い」「安心できる」「一緒にいてラク」で、いずれも６割を超えた。**結婚後の生活で不安を抱えたくないという思いの表れと結婚前の生活とのギャップを少なくしたい意向が垣間見える。

「ドキドキ感(ときめき)が持てる」(29 位)より「一緒にいてラク」(4 位) であることが大切であり、また、「三高」といわれた**かつての結婚 3 大条件「年収が高い」(28 位)「身長が高い」(33 位)「学歴が高い」(45 位) は、いまやいずれも重要視されず、むしろ大事なのは「仕事や収入が安定している」(8 位)** ことである。

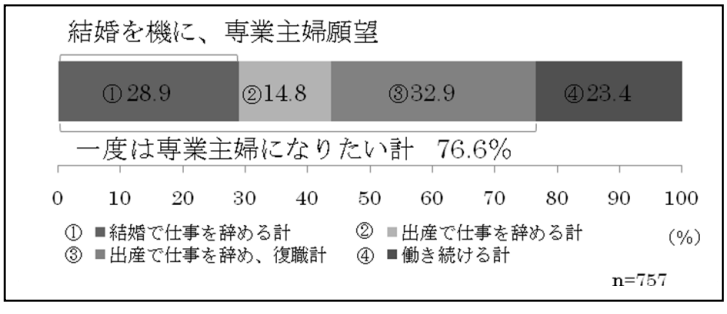
かつては合コンでモテたであろう「大企業に勤めている」は、呈示した 52 項目中 50 位と低い結果。大企業勤務であることが、必ずしも安定している要素とはなっていないことが分かる。

また、僅差ではあるが**「仕事ができる」(18 位)より、「料理・洗濯などの家事ができる」(17 位)が上位にあがった**ことも、今の特徴といえよう。

●結婚後の理想の生活イメージ

：３割が「結婚したら専業主婦」が理想！

Q 結婚した後の理想の生活イメージ

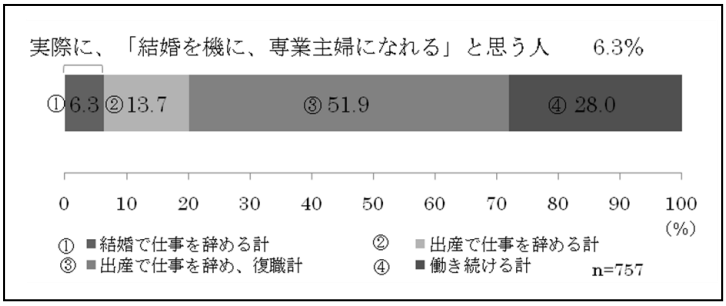


結婚後の理想イメージは、分かれる結果となった。**もっとも多かったのは、「出産したら仕事を辞め、しばらくしたら復職する」で 32.9%。**次いで多かったのが**「結婚したら仕事をやめて専業主婦になる」28.9%**であった。独身女子の**76.6%は、いずれ復職するかどうかはともかく、結婚や出産を機に仕事を辞めて一度は専業主婦になりたい**と思っていること分かった。

●結婚後の実際の生活イメージ

：実際に「結婚したら専業主婦」になれると思っているのは６％

Q　結婚した後の、実際の生活イメージ

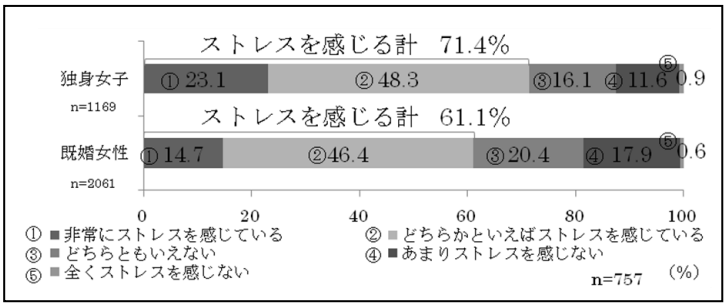


3 割が「結婚したら仕事を辞めて専業主婦になる」のを理想としているのに対し、**実際に専業主婦になれると思っているのは 6%**。いまや、**専業主婦は高嶺の花**であり、**理想と現実イメージの大きなギャップ**がうかがえる。また、**過半数が「出産で仕事を辞めて、いずれ復職する」のが現実的**と考えている。

一方で、**「結婚しても、出産しても、仕事は辞めずに働き続ける」**ことを理想とした人は 23.4%で、実際にそうなると思っている人は 28%と、**大きな差は見られなかった**。かつては、結婚後も仕事を続けるためには夫の許可が必要だったが、いまはむしろ専業主婦になれるかどうかは相手の条件に大きく左右され、仕事を続けることは本人の意思で決められる要素であると言える。

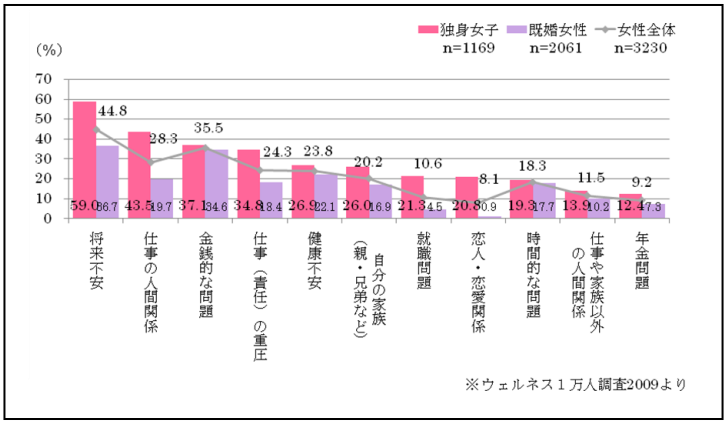
参照＞　ストレスフルで、将来不安の高い独身女子

Q　日頃のストレス実感の有無



本調査は、同じく電通の独自調査である「電通ウェルネス 1 万人調査 2009」と同じ対象者に実施している。この調査によると、独身女子の**7 割がストレスを抱えているのに対し既婚では約 6 割**と、独身のほうが多くストレスを抱えている傾向がある。

Q　ストレスの理由



ストレス原因のトップは「将来不安」で、**既婚と比べると 2 割以上の差が出た**。今の女性にとって**「結婚」は「安心できる居場所」になっている**ことが、この結果からもうかがえる。

実際に、独身女子の 86.9%は将来に不安を抱えており、50.2%は現在の生活にも不安を持っていることが分かっている。

そのほかのストレス原因としては、有職者が多いことから仕事の人間関係や「仕事の重圧（責任）」が高いという結果であった。

婚活疲れの女子を襲うネオ専業主婦志向

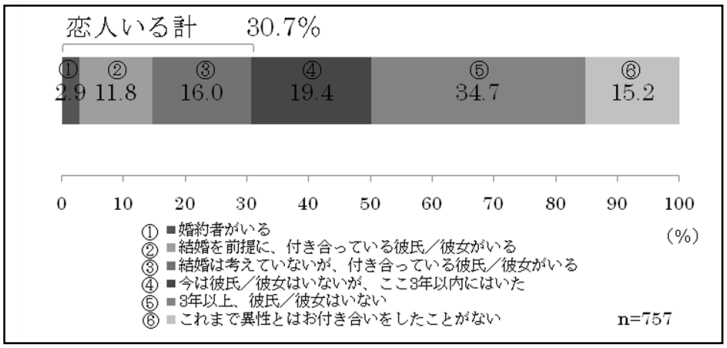
昭和の夫婦像を描いた国民的連続ドラマが 20 代、30 代女性視聴者に支持されるなど、若い世代の女性ほど専業主婦に肯定的だ。なぜ男女雇用機会均等法から 20 年以上たつ今、専業主婦になりたいと願う女性が 3 割もいるのか？　それは今や専業主婦こそ、「あこがれのポジション」だからだ。男女雇用機会均等法世代の女性たちはキャリアにあこがれ、専業主婦は誰もがなれる「デフォルト」だった。ところが、今や専業主婦こそが希少価値である。また、専業主婦願望が増えるのは優しい男性、イクメンの増加もある。ちゃんと稼いで、家事育児も手伝ってくれる・・・こんな男性たちが一部とはいえ実在することで、さらに夢は膨らむのだ。

しかし、すでに「婚活の限界値」は見えている。「養ってほしい」と願う女性に対して「養える」または「養う気がある」男性の数が少なすぎるのだ。この調査は、そんな現実を反映している。いまどきの独身女子たちは決して高望みではない。不安な現代だからこそ、『安心な自分だけの居場所』を確保したいと思っているだけなのだ。　　（白河桃子）

②　イマドキ独身女子の恋愛実態

●恋人の有無：独身女子１０人のうち７人が「彼氏はいない」。半数は「３年以上いない」状況

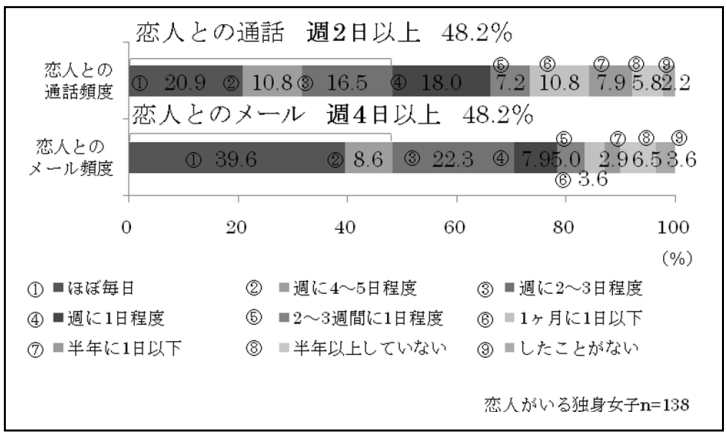
Q　恋人の有無



現在、「付き合っている彼氏がいる」と答えたのは、全体の 30.7%。つまり、**７割は恋人不在の状況**であることが分かった。また、**彼氏がいない人の半分を占める 34.7%が「３年以上いない」**状況で、**「これまで異性とお付き合いしたことがない」という 15.2%**を加えると、まさに、独身女子の半数以上が３年以上、異性と付き合っていないという実態が明らかとなった。

●コミュニケーション状況：彼氏のいる女子の４割は「ほぼ毎日」彼氏とメールをする

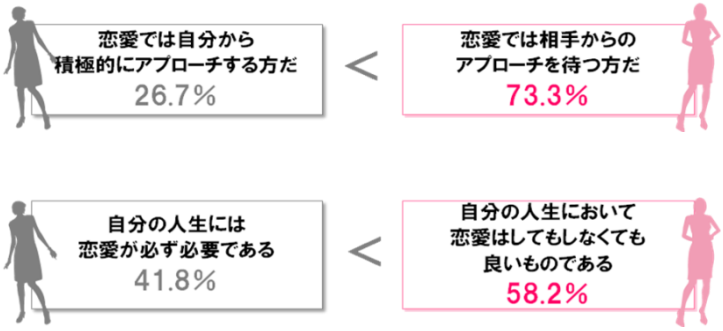
Q　恋人がいる独身女子の恋人とのメール・通話の頻度



彼氏と**「ほぼ毎日メールをする」人は４割**、彼氏と**「ほぼ毎日ケータイで話す」のは２割**という結果。恋人がいる女子の**約半数は、彼氏と週４日以上メールをし、週２日以上はケータイで話している**。相手と時間を合わせる必要がある**携帯通話に比べて**、時間を選ばないメールは２**倍の頻度で行われている**ことが分かった。ちなみに友人とのメール・携帯通話は、恋人の有無でその頻度は変わらない。

●恋愛に対する意識：独身女子の７割以上が、恋愛は“待ち受け”状態。

Q　恋愛意識



n=757

恋愛に対しては、**「相手からのアプローチを待つ方だ」という消極的なタイプが独身女子の７割以上**を占めた。ちなみに**独身男子も 64%が「待つ」タイプ**と答えており、お互いが待ち合っている状況。

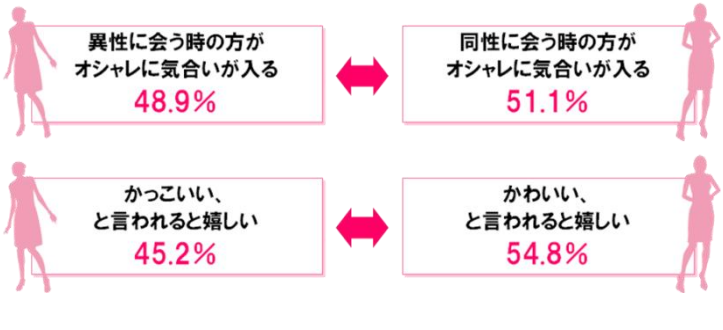
恋愛の必要度合いでも**「恋愛はしてもしなくてもよい」という人が「恋愛は必ず必要である」という人を上回った。**

恋愛低体温の独身女子

10 人に 7 人の独身女子に彼氏がいない。日本の独身者の特徴は「恋人がいない」ことだ。フランスでは 7 割の独身者がカップルで住んでいるのに、日本は、同棲どころか、男女合わせて恋人がいる人は３割にも満たない。しかも、異性とつきあった経験がない」人は 5 人に 1 人という状況だ。婚活ブームで出会いの場は活況のように見えるが、「出会っても後が続かない」。草食を自認する男女がほぼ 6 割と同率で、互いに待ち受け状態の男女に何事も起こらないのは当たり前だ。「恋愛が面倒」という昨今の女子たちは「恋愛低体温」である。「何が面倒なの？」と聞くと「男子が面倒なんです」という。自分がリードしてまで、ガラスのハートを持つ男子との関係を構築することに疲れてしまう。男女ともに傷つくこと、傷つけられること、どちらのリスクもとりたくないというところだろう。それでは恋人ができる人、できない人の差はなんなのだろうか。それはコミュニケーション能力にあらわれる。合コンにも行くし、飲み会にも行く、習い事や趣味の会にも顔を出すといった、コミュニケーションが活発でネットワークを持つ人しか恋人ができない時代と言える。家と会社を往復しているだけで、恋愛も結婚もできたのは 80 年代までなのだ。　（白河桃子）

③イマドキ独身女子の意識

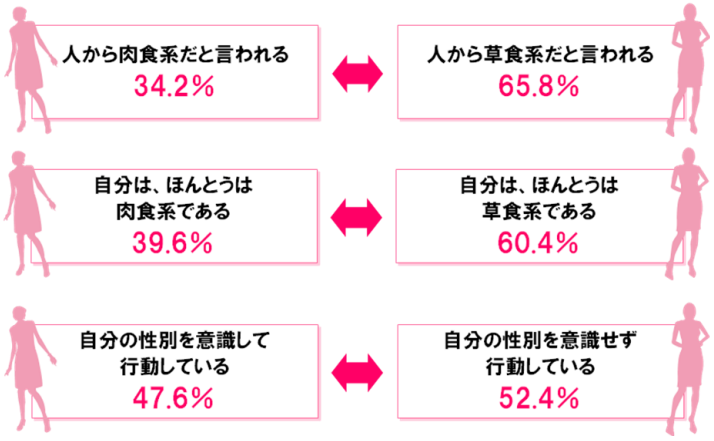
●価値観が多様化？イマドキ独身女子はひとくくりには語れない。



n=757

かつて、オシャレをして出社した女性社員に「今日、（彼氏と）デート？」などと聞こうものならセクハラ発言といわれたものだが、いまや**半数が「気合いを入れてオシャレをする」**のは、男子ではなく**女子と会うとき**だという結果。また、言われて嬉しい言葉として「かわいい」と「かっこいい」を比較しても、**「かっこいい」と言われたほうが嬉しい人も 45%**と拮抗。これ以外にも、独身女子の二極化傾向は随所にみられる。

●自称「肉食系女子」は４割。自称「肉食系男子」とほぼ同じ出現率。



昨年草食男子が話題になったが、女子はどうか？**「人から肉食系だと言われる」肉食風の女子は 34.2%、「自分は、ほんとうは肉食系である」と答えた肉食自覚のある女子は 39.6%**と自覚が見た目を上回る結果となった。ちなみに**“肉食風”男子は 27.6%、“肉食自覚のある男子”は 40.7%**と、自覚ベースでは男女差はほとんどみられない。また、ふだん**「自分が女性であることを意識せずに行動している」人は 65.8%と３人に２人**という結果。頑張って意識しないと女子でいられない現状が見て取れる。

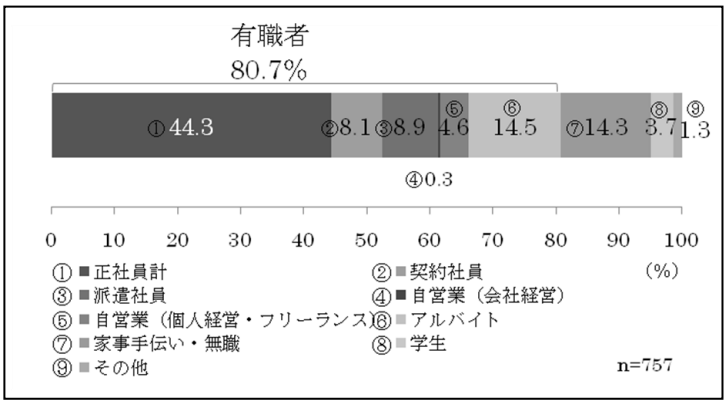
フラット化進む男女

女子力という言葉で消費がけん引されたが、なぜ「女子力」が流行るのか？　男女間の敷居が低くなるフラット化が進んでいるのだ。フラット化が進めば、「女子力」は備わっているものではなく、「頑張って手に入れなくてはいけないもの」になってくる。すでに、この調査では「女性であることを意識」して行動する人は、三人に１人だった。対する男性のほうのフラット化も進んでいる。草食男子という言葉が流行ったように、スキンケアに気を配り、スイーツを好み、お弁当を持ってくる男子たちは、消費の面でも女性市場に越境してくる。女性向けとして開発しても、男性もそれについてくれるので、女子力市場はますます拡大していくだろう。今の 20 代を私は『楽近世代』と名付けているのだが、男女ともにこの時代、自分の性別（ジェンダー）にこだわらないほうが楽なのだ。しかし互いに楽をしていると、さらに中性化が進む。恋愛や結婚からはどんどん遠ざかっていくのが、残念なところなのだ。　（白河桃子）

④独身女子の仕事・お金・暮らし

◆仕事：８割が働いていて、そのうち半数以上が「正社員」。

Q　職業について



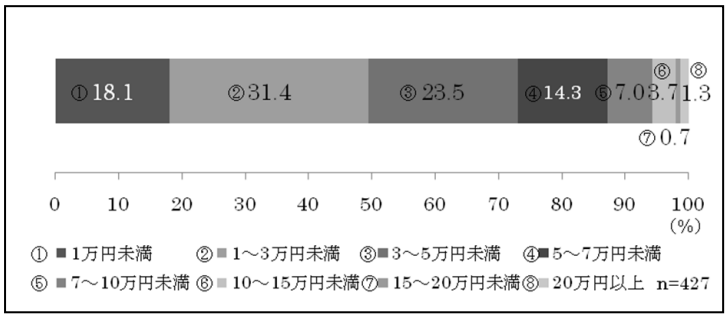
未婚女子の８割は働いており、そのうちの半数以上が「正社員」で、2 割は「アルバイト」という状況。**正社員のうち 4 人に 3 人（未婚女性全体の 32.8%）は「一般事務職」**で、「総合職」や「現場クラス」で働く人は 5 人に 1 人（同 9.8%）という結果であった。

ちなみに、**独身男子の「働いている」率は 84.4%で、女子と大差はなかった。**

◆お金：１ヶ月に使えるお金は、平均約５万円。

飲み会にかける費用は、一回平均 2,864 円。客単価“三千円の壁”実在。

Q　入出金について



月収から家賃や高熱費などを引いた**一ヶ月に自由に使える金額の平均は、50,878 円。**

彼女たちはファッションに月平均１万円使い、美容・スキンケアには約 6 千円をかける。**一回の飲み会で使う金額は、会社関係の会合や合コンなどで平均 2,864 円、女子会などの同性との会合では 2,744 円と**いう結果。飲食店における独身女子客の単価“三千円”のハードルは高いようだ。

＜１ヵ月のお金の使い方（平均値）＞

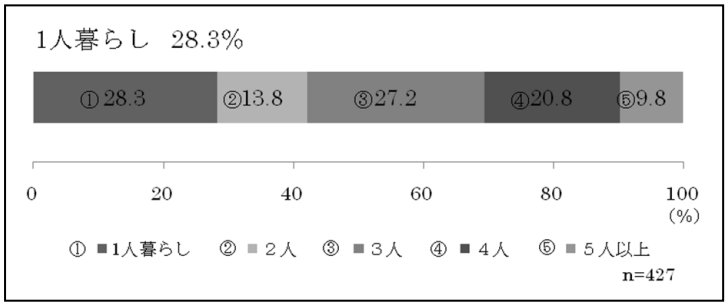
※有効回答サンプルに基づき集計

	月収 （バイト・小遣い含む）	１ヶ月に使うお金の総額 （家賃・光熱費等を引いた自由に使える金額）	１ヶ月の飲食費	１ヶ月のケータイ代
女子 n＝427	149,385 円	50,878 円	17,039 円	5,947 円
男子 n=717※	202,432 円	62,660 円	23,622 円	6,146 円

	１ヶ月のファッション代 （洋服・バック・小物など）	１ヶ月の美容・スキンケア代 （ヘアメイク含む）	１回の飲み会代 （合コン・会社関係の会合など）	１回の同性の友人との会合代 （女子会など）
女子 n＝427	10,372 円	6,190 円	2,864 円	2,744 円
男子 n=717※	5,130 円	1,958 円	3,566 円	2,717 円

◆暮らし（住居）：６割以上が家族と同居。一人暮らしは３割弱。

Q　同居人数と相手について



独身女子の**一人暮らし率は、28.3%。複数同居と回答した人のうちの 87.3%(全体の 62.5%)は家族と同居**しているという結果であった。

ちなみに､2 人で暮らしている人で同居相手が恋人と答えたのは 16.2%（全体の 5.2%)。同棲率はまだまだ高くはないようだ。

【調査の概要】

（１）「電通『独身』意識調査」

調査対象：全国、23～49歳、男女個人1996名

※独身女性757名　（20代　347名、30代　230名、40代　180名）

調査時期：2010年2月12日（金）～2月13日（土）

調査手法：インターネット調査

（２）「電通『独身』実態調査」

調査対象：全国、23～49歳、男女個人1145名

※独身女性427名　（20代　188名、30代　130名、40代　106名）

調査時期：2010年9月3日（金）～9月8日（水）

調査手法：インターネット調査

※参考　「ウェルネス1万人調査2009」

調査対象：全国、20～69歳、男女個人10017名

調査時期：　2009年７月31日(金）～8月4日（火）

調査手法：インターネット調査

【白河桃子氏プロフィール】

白河　桃子　Touko Shirakawa

東京都出身。慶應義塾大学文学部卒業。

家族社会学会会員／文教大学生活科学研究所客員研究員

女性の年代別ライフスタイル、未婚、晩婚、少子化などに関するインタビューなど膨大な取材に対応。その分析コメントには定評がある。

山田昌弘・中央大学教授とともに「婚活（結婚活動)」を提唱し、共著の「『婚活』時代」（ディスカヴァー21 社）が 19 万部のヒットに。「婚活」は 2008 年度に続き、2009 年度も流行語大賞にノミネートされるほど世の中に影響力を持つワードとなり、今も注目されている。